

西府崖線保全活動

～後世に残そう！！ ハケと湧水～

これまでの保全活動のあらまし

近年、環境問題への関心の高まりは、まことに喜ばしいかぎりです。「開発」から「環境保全」への価値観の大転換は今や世界の流れです。府中市でも自然や景観を守り、「よりよい環境」を次世代に引き継ぐことが、市民にも行政にも大きな課題となっています。

NPO法人・府中かんきょう市民の会では、西府崖線のハケと湧水の保全活動を始めてから10年がすぎました。この間、地元のTご夫妻は献身的な活動をされました。また、関係者一同で市長への手紙や担当部署への意見と提言も行ってきました。

この経緯をふまえ、府中かんきょう市民の会では、地域の方々と協力し、さらに「ハケと湧水の保全活動」を進めてまいります。

ハケと湧水・用水周辺の自然環境を守ろう

～行政と市民の協働事業の展開を～

進藤礼治郎

珍しいサワガニ、カルガモ親子の泳ぐほほえましい風景、池の鯉をねらうサギ、知らない市民同士で会話を交わす光景。野鳥、トンボや蝶が舞い、四季折々、緑の変化があり、富士の眺望、夏は緑陰と身近な自然の恵みをうけています。

後世に残す市民の共有財産

崖線(ハケ)は市の東西を貫いているが、社寺林を除いて宅地や道路で分断され、いまでは残り少なくなりました。西府ハケは昭和49年、「府中市段丘崖緑地保全地域」(7,527m²)に指定し、市有地に買収した貴重な自然林で、後世に残す市民の共有財産としています。先見性ある行政対応であったと高く評価できます。それだけに保全や維持を行政に任せるだけでなく市民として、できる範囲で、この自然を守る活動をしようと考えます。西府駅開業に伴う宅地化が進み、コンクリートにおおわれ、雨水の地下浸透する緑地面積が減り、西府湧水の枯渇が心配されるこの頃です。



ハケと湧水を守る市民座談会
7月3日(日)西府文化センター

市民の献身的な清掃活動

ハケ下は湧水や用水路の集中する地域で、平成19年、素掘り水路(市川)に通年通水が実現したことにより、ホタル放流が行われ、市民の関心は高まっています。また、カッパ池をトンボ池にできないかなど、やすらぎとうるおいの親水空間づくりの思いは膨らみます。

十数年前から、市には湧水やハケの自然を守る提案を繰り返してきました。湧水量測定もその一つで、水量減少を肌で感じながら、ハケ上(西府町)に緊急の雨水浸透ます設置や透水性舗装事業の着手を働きかけています。

かつての清流復活や自然景観に魅せられた市民の、献身的なハケや水路の清掃活動に対して、平成18年都市景観賞で“まちづくり活動”として顕彰されました。このボランティア活動をもっと多くの市民で支援したいと、本年6～7月に「第1回西府わき水まつり」を開きました。市民の予想を超える反響があり、意を強くしているところです。

当面の活動と目標

当面の活動を以下で進めます。市民各位のご賛同とご協力をお願いいたします。①湧水測定ボランティア募集②市民参加の清掃実施③市民むけの情報発信④第2回わき水まつりの準備⑤親水・生態系に配慮した水辺づくりの調査・研究(農工大学指導)

清掃活動のお知らせ

日時 十一月二十三日(水)

十時集合 十二時まで

大雨中止

集合場所 西府がいせん・ハケ下

あずまや前

※エレベータより西に三百メートル

持ち物 手袋・マスク・帽子・長靴

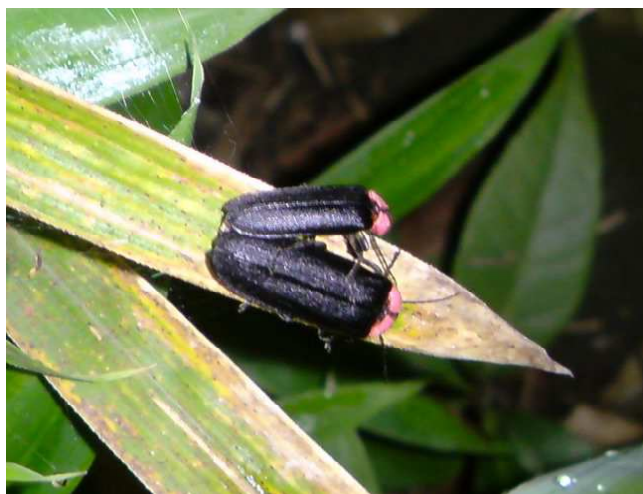
協力 府中市

☆終了後、茶話会を開催予定

「府中用水」は府中の自然遺産

—府中用水探索レポート—

葛西利武



ホタルの発光と交尾

「西府わき水まつり」のパート1である展示解説・対話・アンケート実施は、6月17日18日の両日、西府文化センターハケ下の市川緑道ぞいで開催された。私は18日に10時から16時までスタッフとして参加した。そして、ほかのスタッフ4人と、午前中の手がすいたときに府中用水の探索に出かけた。

緑道ぞいのあずまやを出発し、次の信号を左にわたり府中用水本流にでた。用水は前日の雨で少し濁っていたが川底は見えた。自分の日常生活圏にこのような安らぎの場があるとはうれしいことだ。

緑道ぞいにはビワの果実がたわわに実り、小さな自家農園には様々な農作物が栽培されている。用水わきのビワの実を一つつまむと、果汁がしたり落ちとても美味しかった。曇り空がよく似合うアジサイは生き生きとし、青白色から淡紅色のまり形の花が輝いていた。

ハケ、わき水、花と草木、畑と田圃、用水など……このような光景は日本の原風景の縮小版といってよいだろう。

用水をよく観察すると所々の側壁には、ホタルの幼虫の餌となるカワニナがへばりつき、川底にはシジミの殻がみえる。鯉が悠然と泳ぎ、沈水性の水草がゆらゆらと流れに身を任せている。ホタルの成虫はなにも食わずに夜露をなめるだけなのに、幼虫はカワニナを餌にする肉食系とは知らなかった。ホタルの牧歌的なイメージからして、意外である。

時間の都合で中央自動車道までしか歩けなかった。しかし、近々、府中用水の多摩川の取入口である国立市青柳まで歩くつもりだ。

この用水は、「過去」からの府中市民への贈り物だろう。いうなれば、「府中自然遺産」といってもよいのではないだろうか。

西府崖線自然観察記

期間／2011年2月16日～3月15日

田中香代子

西府崖線では府中で唯一1年中16℃～17℃の水温を保って枯れることなく湧き出ている「湧水」があることは皆さん御存知のことと思います。その湧水を引き込んだ小さな池が崖線沿いにあります。その池に釣り好きの人が近くの川で釣ってきた魚や、近くの子どもが金魚すくいでもったのかな～と思われるような真っ赤な金魚が放たれています。

この小さいながらも澄んだ水の池に大小様々な魚の泳ぐ姿に、道行く人々は足を止め憩いの場となっているようです。時々コサギ、アオサギがやってきて小さな魚たちは餌食になっているようですが…。

先日、いつもの散歩時に池のすぐ近くに住んでる女性に「玄関の前に大きな魚が転がっていてビックリしたわよ～」と声をかけられました。事情を聴いてみると「青っぽい大きな鳥が池の近くの屋根に止まって魚をねらっていたのよね。獲ったけど呑み込めなかったんじゃないかな～」とケラケラ笑って話をしてくれました。放置されていた魚は5、60cmあったようですが、その女性の推測どおり多分アオサギの『落し物』と思われる。

「せっかくの獲物を…」アオサギはさぞ悔しがったことでしょう。また、この池の水際に湿地で育つクレソン(オランダガラシ)が生えています。春先の今、若芽は食することができ、6月過ぎには白色の十字状花に蜜をつけます。2月25日の早朝、ウグイスの初鳴きがありました。



カルガモの親子(西府わき水横の市川用水にて)

NPO法人・府中かんきょう市民の会

2011年11月1日(火) No.1

担当 浅田多津子 進藤礼治郎

TEL042-351-8190